

# 令和3年度当麻町地域農業再生協議会水田収益力強化ビジョン

## 1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

当地域は、上川地方のほぼ中央部に位置し、水田総面積に占める水稲作付けの割合が約73%で、水稲栽培を主体とした中、農業経営の安定を図るべく施設野菜・花きとの複合経営、一部畑作物（大豆、そば、飼料作物）の栽培が行われている。

当麻町産米は、北海道農協米対策本部が定める北海道米ランキングにおいて、12年連続最高位ランクを獲得しており、「北海道一の米産地」との評価が定着されることを目指している。

昨今、主食用米の需要が減少傾向にあり、水田機能を維持・確保するため、これまでは加工用米を水張転作の中心作物として推奨し、一部に新市場開拓用米にも取組み、当麻農業の経営安定を図ってきた。今年度、北海道において主食用米の緊急深堀対策が講じられたことにより、主食用米から更なる作付転換が求められるが、水稲栽培を主体とする当地域においては、水張転作を推進し、これまで売れる米づくりの一つのアイテムであった加工用米や新市場開拓用米をはじめ、飼料用米などを含めた新規需要米にも取組むことが農業経営の安定において重要である。

地域の課題としては、農業者の高齢化が進み、農家戸数が減少している傾向にあるため、将来の農業の担い手を育成・確保すべく、的確に情報を発信することが重要である。また、経営体当たりの耕地面積が拡大傾向にあるため、スマート農業等の導入により、農作業の効率化を図ることが一層求められてくると捉えている。

## 2 高収益作物の導入や転作作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

当地域においては、作付けを推進している野菜・花きなどの高収益作物に対し、産地交付金等を活用することで、作付面積の維持・拡大を図っており、水田における同作物の作付面積は昨年約57haであった。

今後においても、産地交付金や施設栽培に関わる補助制度などに関し、生産者に対して適切な情報提供を行いながら、当再生協議会が推進する基幹作物の安定的な生産・供給を図り、収益力の向上による経営の高水準化を目指す。

## 3 畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

近年の農家戸数の減少に対応し、作物の作付面積の維持・拡大を実現するため、各生産者の事情や「人・農地プラン」を踏まえながら、今後の担い手への計画的な農地の集積・集約化を推し進めることで、将来にわたって水田が有効利用されるよう取組む。

なお、当地域はこれまで水稲栽培を中心としてきた産地であり、今後も米産地として発展を目指すため、畑地化を推進せずに、水田機能を維持することを目標とする。

## 4 作物ごとの取組方針等

### (1) 主食用米

競争力の高い主食用米は、他産地との差別化を図り、販売業者等の需要に応えるため、独自の白米販売強化と販路拡大に努める。また、農業者所得の柱となるため、栽培の低コスト化・省力化の推進を強化し、生産基盤を維持・拡大することが重要である。

## (2) 非主食用米

### ア 加工用米

これまでは主食用米の生産の目安から超過した分の調整手法として扱ってきたが、加工米飯など「米」としての品質を求められる用途の引き合いがあるため、加工用米の需要動向を注視しながら、「北海道一の米産地」との評価の定着を目指し、「売れる米づくり」の一つのアイテムとして生産に取り組む。

### イ 飼料用米

需要動向や販売先等の意向調査をし、北海道における主食用米の緊急深堀対策に応じると同時に、水張面積を維持していくため、多収品種に限らず、飼料用米を作付け転換の一つのツールとして位置づけ、生産に取り組む。

### ウ 米粉用米

需要動向や販売先等の意向調査をし、水田機能維持・確保のための水張転作の一つのツールとして需要に応じて生産に取り組む。

### エ 新市場開拓用米

主食用米の国内需要が減少する中、国内外の米の新市場の開拓を図るため、飼料用米、米粉用米を除く新規需要米の生産振興を図る。

## (3) 麦、大豆、飼料作物

需要動向や販売先等の意向調査をし、需要に対応でき、且つ収量性の高い優良品種への模索・転換を図った上で生産を図る。また、安定した品質・収量を目指し、且つコスト削減に努めるために、湿害を回避するための排水対策の取組みと除草対策等の推進を強化し、更には団地化による作業効率の向上により生産コスト削減を図り、作付面積の維持・拡大と、品質及び収量の安定化を図る。

## (4) そば

転作作物として重要な農作物であるため、収量性向上に向けて、湿害を回避するための排水対策の取組みと除草対策等の推進を強化し、更には団地化による作業効率の向上により生産コスト削減を図り、作付面積の維持・拡大と、品質及び収量の安定化を図る。

## (5) 高収益作物（野菜・花き等）

当地域における水田農業にとって重要な産地ブランドの多い作物であり、販売先からの需要も高いため、水稲との複合経営によって、農業所得の確保と産地ブランドとして更なる強化を図るべく地域振興作物として位置づけ奨励を図る。

安全・安心な農産物が求められる中、今後産地として生き延びていくための大きなツールとなることから、消費者・実需者からニーズの高い野菜、花きに対して、作付面積拡大を図る。

【地域振興作物】産地交付金の活用方法の明細に定める作物一覧（別紙参照）

## (6) 耕畜連携

利用協定に基づき生産された飼料作物の供給を受けた家畜の排せつ物からなるたい肥を散布することで資源循環を図る。

## 5 作物ごとの作付予定面積等

作物等	前年度作付面積等 (ha)	当年度の作付予定面積等 (ha)	令和5年度の作付目標面積等 (ha)
主食用米	2,426	2,327	2,500
備蓄米	0	0	0
飼料用米	10	155	13
米粉用米	7	0	7
新市場開拓用米	18	18	20
WCS用稲	0	0	0
加工用米	135	101	150
麦	0	0	0
大豆	85	97	90
飼料作物	491	532	531
・子実用とうもろこし	8	18	17
そば	187	190	186
なたね	0	0	0
高収益作物	57	60	61
・野菜	51	54	55
・花き・花木	6	6	6
・果樹	0	0	0
・その他の高収益作物	0	0	0
その他	0	0	0
畑地化	0	0	0

## 6 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	使途名	目標	目標	
				前年度（実績）	目標値
1	そば・デントコーン・子実とうもろこし	品質・収量向上除草対策加算	作付面積（そば） 平均収量（そば） 作付面積（デントコーン） 平均収量（デントコーン） 作付面積（子実とうもろこし） 平均収量（子実とうもろこし） ※平均収量は10a当たり	（令和2年度） 187ha 46kg 13ha 3,451kg 8ha 462kg	（令和5年度） 186ha 68kg 14ha 4,100kg 17ha 500kg
2	大豆	品質・収量向上除草対策加算	作付面積（大豆） 1等大豆生産率	（令和2年度） 85ha 0.1%	（令和5年度） 90ha 5.0%
3	大豆	品質・収量向上除草対策加算	作付面積（大豆） 1等大豆生産率	（令和2年度） 85ha 0.1%	（令和5年度） 90ha 5.0%
4	そば・大豆・デントコーン（子実とうもろこし含む）牧草	排水対策助成	作付面積（そば） 平均収量（そば） 作付面積（大豆） 平均収量（大豆） 作付面積（デントコーン） 平均収量（デントコーン） 作付面積（子実とうもろこし） 平均収量（子実とうもろこし） 作付面積（牧草） 平均収量（牧草） ※平均収量は10a当たり	（令和2年度） 187ha 46kg 85ha 190kg 13ha 3,451kg 8ha 462kg 470ha 314kg	（令和5年度） 186ha 70kg 90ha 200kg 14ha 4,100kg 17ha 500kg 500ha 360kg
5	大豆	品質安定加算	作付面積（大豆） 1等大豆生産率	（令和2年度） 85ha 0.1%	（令和5年度） 90ha 5.0%
6	そば	品質安定加算	作付面積（そば） 平均収量（そば） 等級そば生産率 ※平均収量は10a当たり	（令和2年度） 187ha 46kg 98.7%	（令和5年度） 186ha 68kg 99.0%
7	子実とうもろこし	品質安定加算	子実とうもろこし作付面積 販売金額（10a当たり）	（令和2年度） 8ha 18,308円	（令和5年度） 17ha 19,800円
8	そば・野菜・花き・豆類・馬鈴しょ・デントコーン・子実とうもろこし	担い手振興作物加算	作付面積（そば） 担い手割合（そば） 地域販売金額（そば）	（令和2年度） 187ha 64.8% 5,292千円	（令和5年度） 186ha 70.0% 20,000千円

			作付面積（野菜・花き） 担い手割合（野菜・花き） 地域販売金額（野菜・花き） 作付面積（豆類・馬鈴しょ） 担い手割合（豆類・馬鈴しょ） 地域販売金額（豆類・馬鈴しょ） 作付面積 （デントコーン・子実とうもろこし） 担い手割合 （デントコーン・子実とうもろこし） 地域販売金額 （デントコーン・子実とうもろこし）	57ha 66.5% 1,015 百万円 59a 23.5% 137 千円 22ha 83.3% 10,073 千円	61ha 70.0% 1,050 百万円 65a 40.0% 160 千円 31ha 88.0% 11,500 千円
9	野菜・花卉	振興作物助成	野菜・花卉作付面積	(令和2年度) 57.0ha	(令和5年度) 61.0ha
10	豆類・馬鈴しょ	振興作物助成	豆類・馬鈴しょ作付面積 豆類・馬鈴しょ販売金額	(令和2年度) 59a 137 千円	(令和5年度) 65a 160 千円
11	地力増進作物	振興作物助成	連作回避を目的とした作付面積 基盤整備に伴う作付面積	(令和2年度) 1ha 9ha	(令和5年度) 5ha 15ha
12	大豆・そば・牧草・デントコーン（子実とうもろこし含む）	団地化加算	作付面積（大豆） 団地化率（大豆） 作業時間削減率（大豆播種） 作付面積（そば） 団地化率（そば） 作業時間削減率（そば播種） 作付面積（牧草） 団地化率（牧草） 作業時間削減率（牧草掃除刈） 作付面積（デントコーン） 団地化率（デントコーン） 作業時間削減率（デントコーン播種） 作付面積（子実とうもろこし） 団地化率（子実とうもろこし） 作業時間削減率（デントコーン播種）	(令和2年度) 85ha 44.2% 17.7% 187ha 14.8% 5.9% 470ha 63.4% 28.2% 13ha 43.6% 17.4% 8ha 0.0% 0.0%	(令和5年度) 90ha 60.0% 30.0% 186ha 30.0% 12.0% 500ha 68.0% 30.2% 14ha 54.0% 29.3% 17ha 40.0% 16.0%
13	大豆（黒大豆含む）	条件不利地生産性向上加算	取組面積 条件不利地での取組率（大豆） 平均収量（大豆） ※平均収量は10a当たり	(令和2年度) 10ha 59.0% 190kg	(令和5年度) 11ha 70.0% 200kg
14	そば・牧草	条件不利地生産性向上加算	取組面積（そば） 条件不利地での取組率（そば） 平均収量（そば）	(令和2年度) 85ha 86.7% 46kg	(令和5年度) 90ha 94.0% 68kg

			取組面積（牧草） 条件不利地での取組率（牧草） 平均収量（牧草） ※平均収量は10a当たり	122ha 41.6% 314kg	120ha 60.0% 360kg
15	牧草	飼料作物団地化特別加算	作付面積（牧草） 3ha 団地化率（牧草） 作業時間削減率（牧草掃除刈）	（令和2年度） 470ha 76.2% 33.9%	（令和5年度） 500ha 85.0% 35.0%
16	大豆・そば・デントコーン（子実とうもろこし含む）	品質・収量向上技術取組加算【土壌改良】	作付面積（大豆） 平均収量（大豆） 作付面積（そば） 平均収量（そば） 作付面積（デントコーン） 平均収量（デントコーン） 作付面積（子実とうもろこし） 平均収量（子実とうもろこし） ※平均収量は10a当たり	（令和2年度） 85ha 190kg 187ha 46kg 13ha 3,451kg 8ha 462kg	（令和5年度） 90ha 200kg 186ha 68kg 14ha 4,100kg 17ha 500kg
17	そば	品質・収量向上技術取組加算【増収施肥】	作付面積（そば） 平均収量（そば） ※平均収量は10a当たり	（令和2年度） 187ha 46kg	（令和5年度） 186ha 68kg
18	大豆	品質・収量向上技術取組加算【増収施肥】	作付面積（大豆） 平均収量（大豆） ※平均収量は10a当たり	（令和2年度） 85ha 190kg	（令和5年度） 90ha 200kg
19	デントコーン（子実とうもろこし含む）	品質・収量向上技術取組加算【増収施肥】	作付面積（デントコーン） 平均収量（デントコーン） 作付面積（子実とうもろこし） 平均収量（子実とうもろこし） ※平均収量は10a当たり	（令和2年度） 13ha 3,451kg 8ha 462kg	（令和5年度） 14ha 4,100kg 17ha 500kg
20	飼料作物	資源循環助成（耕畜連携）	作付面積（飼料作物） 取組率	（令和2年度） 491ha 20.8%	（令和5年度） 500ha 23.0%
21	新市場開拓用米	新市場開拓用米取組拡大助成（追加配分）	取組面積	（令和2年度） 18.0ha	（令和5年度） 20.0ha
22	飼料用米・米粉用米	複数年契約助成（追加配分）	複数年契約面積（飼料用） 複数年契約数量（飼料用） 作付面積（飼料用） 作付数量（飼料用） 複数年契約面積（米粉用） 複数年契約数量（米粉用）	（令和2年度） 9.6ha 54.7t 9.6ha 54.7t 0.0ha 0.0t	（令和5年度） 13.0ha 73.7t 13.0ha 73.7t 7.0ha 39.7t

			作付面積（米粉用） 作付数量（米粉用）	6.6ha 37.3t	7.0ha 39.7t
23	そば	そば作付助成 （追加配分）	作付面積（そば） 平均収量（そば） ※平均収量は10a当たり 等級そば生産率 作業時間削減率（そば播種）	（令和2年度） 187ha 46kg 98.7% 5.9%	（令和5年度） 186ha 68kg 99.0% 12.0%
24	加工用米・飼料用 米・米粉用米・新市 場開拓用米	転換作物拡大加算 （追加配分）	取組面積（加工用） 取組面積（飼料用） 取組面積（米粉用） 取組面積（新市場開拓用）	（令和2年度） 135.3ha 9.6ha 6.6ha 18.0ha	（令和3年度） 100.0ha 145.0ha 7.0ha 18.0ha

※ 必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定して下さい。

※ 目標期間は3年以内として下さい。